

平成26年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	上越教育大学
研究開始年度	平成26年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
十日町市	特別支援学校	知的障害	<small>とおかまちしりつ</small> 十日町市立ふれあいの丘支援学校 <small>おかしえんがっこう</small>

2 研究テーマ

小学校との交流及び共同学習を推進する授業づくりを基礎にした特別支援学校の教育課程に関する実践研究

3 研究の概要

対象校となる十日町市立ふれあいの丘支援学校（以下、支援学校という。）は、市立十日町小学校（以下、小学校という。）に併設されている。本研究では、支援学校に在籍する児童生徒の実態調査と教育課程に関する実態調査、小学校との交流及び共同学習の実態調査、学校コンサルテーションに基づく授業の実践と評価、教育課程の評価と改善を実施した。

まず、学校行事や教科、掃除や係活動、休み時間などを通じて日常的に行われている交流及び共同学習について授業観察と分析を行った。また、交流・共同学習が実施される「城ヶ丘ふれあいフェスティバル（文化祭）」、フェスティバルに向けての事前学習を中心に授業観察と分析を行った。学習内容は、小学校4年生と合同でステージ発表と4グループごとの巨大アートの作品作りであった。交流・共同学習が中心となる「城ヶ丘3施設ビッグフェスタ」では、計画の段階から代表が参加し、支援学校の児童生徒が小学校の児童に教える場面も観察された。

交流・共同学習の基盤となる授業実践では、これまで児童生徒一人一人がわかって動ける授業づくりと教師の実践的指導力の向上をテーマに研修を重ね、児童生徒が主体的に学習に取り組んでいる姿が見られた。2回の特別支援教育セミナーにおいては、作業学習などで更に生徒が主体的に取り組むための検討が行われた。

交流・共同学習を進める教育課程編成や日々の授業での課題等について、授業観察に基づく参与観察による事象記録を行い、その記録をもとにKJ法等を用いて、授業展開や交流・共同学習における両校の児童生徒への教育効果、また教育課程編成に向けての課題について検討した。

4 研究の成果

特別支援学校の児童生徒と小学校の児童との交流及び共同学習を促進し、より発展的なものとするためには、両校の教育課程における計画的な学校行事を通じた交流及び共同学習と、学校行事に向けた事前学習が重要であった。加えて、給食や給食後掃除、係活動や休み時間などの日常的な児童生徒相互の交流、またその機会が重要であることが示された。

こうした行事交流や日常交流には、支援学校と小学校が併設されている物理的な施設環境が大きく作用していた。両校の児童生徒が学校行事を共催できる、給食を一緒に食べる、休み時間に教室を気軽に行き来できる、校舎内の共有スペースが有効であるなど、児童生徒が相互に活動の様子を見たり、やりとりしたりできる物理的環境が支えとなっていた。また、こうした物理的環境を活かした児童生徒相互の日常的な交流や触れ合いの機会と体験について、年度を通じて積み重ねることの重要性が示唆できる。

5 課題と今後の方策

更に充実した交流及び共同学習の実践を推進するためには、日々の授業と交流行事などの事前・事後指導を組織的、計画的に関連させながら行う必要が課題となる。週に1回だけの授業があそび、生活単元学習、総合的な学習の時間、図工、美術、音楽など多くあり、学校としての交流行事が3回、地域との交流行事も6回あり、行事の事前・事後指導と日常の授業と関連を考えた教育課程編成にしていく必要がある。

また、重度重複学級の児童生徒と普通学級の児童生徒との実態が大きく異なるなかで、合同で授業を行っている場面もある。中学部では、日常的な交流の相手が小学生であり、同年代の生徒との交流を行っているが、地域の公立中学校との交流では、遠距離であることなどの立地上の課題も認められた。卒業後の高等部は新潟県立小出特別支援学校川西分校となり、この分校との連携も課題の一つである。